

あきたからの米レター

令和3年産 水稻の作柄は「やや良」の見込み 地帯別作柄の良否は県北・中央・県南ともに「やや良」

秋田県の10a当たり平均収量は591kg

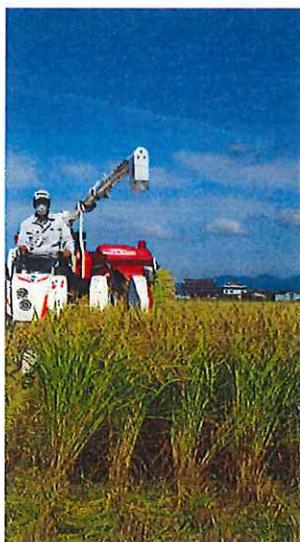
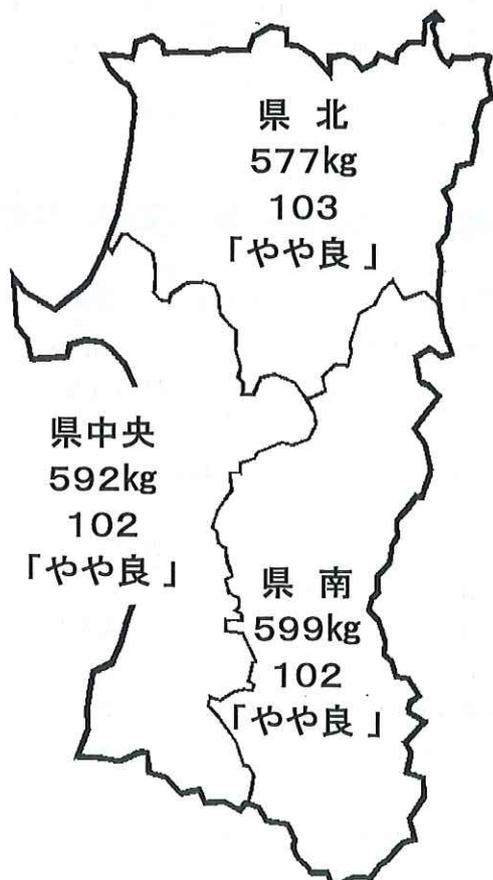
令和3年9月25日現在
東北農政局秋田県拠点

東北農政局秋田県拠点は、9月25日現在における秋田県の水稲の作柄は「やや良」が見込まれると発表した。これは、全もみ数(穂数×1穂もみ数)が平年を上回って確保され、登熟もおおむね順調に推移していることから、10a当たり予想収量は591kgが見込まれるとしている。作柄表示地帯別10a当たり予想収量は、県が577kg、中央が592kg、県南が599kgでいずれも「やや良」が見込まれるとしている。主食用作付け見込み面積に予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は42万2千トンで、前年産と比較して3万1,300トンの減少が見込まれるとしている。

秋田
591kg
102
「やや良」

秋田県作柄表示地帯別10a当たり
予想収量及び作柄概況

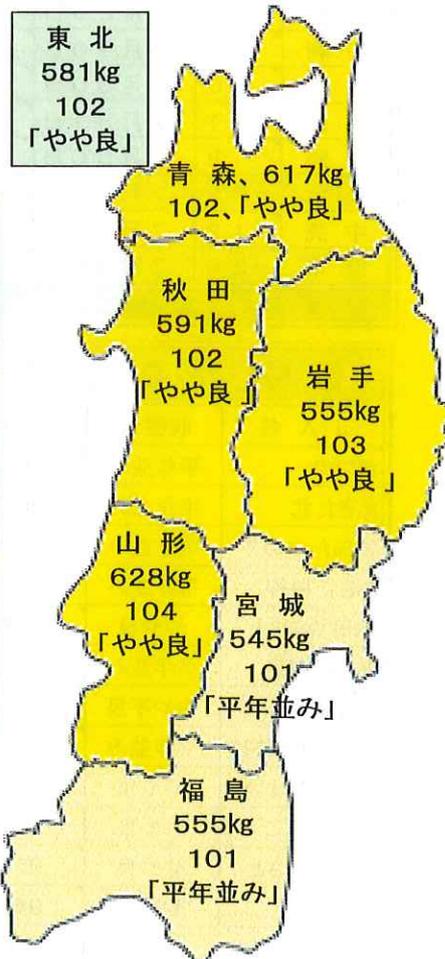
令和3年10月12日公表
東北農政局秋田県拠点



澄みきった秋空の下
コンバインの音が響く
JA秋田なまはげ
四ツ小屋地区
令和3年9月23日

東北6県の作柄概況

令和3年10月12日
東北農政局公表



— 出穂期前後は高温・多照 —

初期登熟順調、登熟中・後期低温・寡照登熟鈍化 高品質・良食味米の調製

8月20日に行った各地域振興局農林部農業振興普及課定点ほ場の「あきたこまち」の生育は、全県平均でみると、出穂は7月29日で平年より5日早まっている。穂数は452本/m²(平年比101%)、1穂粒数74.7粒(同102%)、総粒数33.6千粒/m²(同103%)である。出穂前後は気温が高く日照時間の多い日が続いたことから、初期登熟は順調に進んでいるが、高温時の出穂は胴割れ粒や白未熟粒の発生が心配される。また、出穂は地域差、ほ場間差、株内のバラツキが大きく、今後は早期落水防止など登熟の向上を図るとともに、品質・食味を落とさない適期刈り取りが重要となる。

農業振興普及課定点調査結果

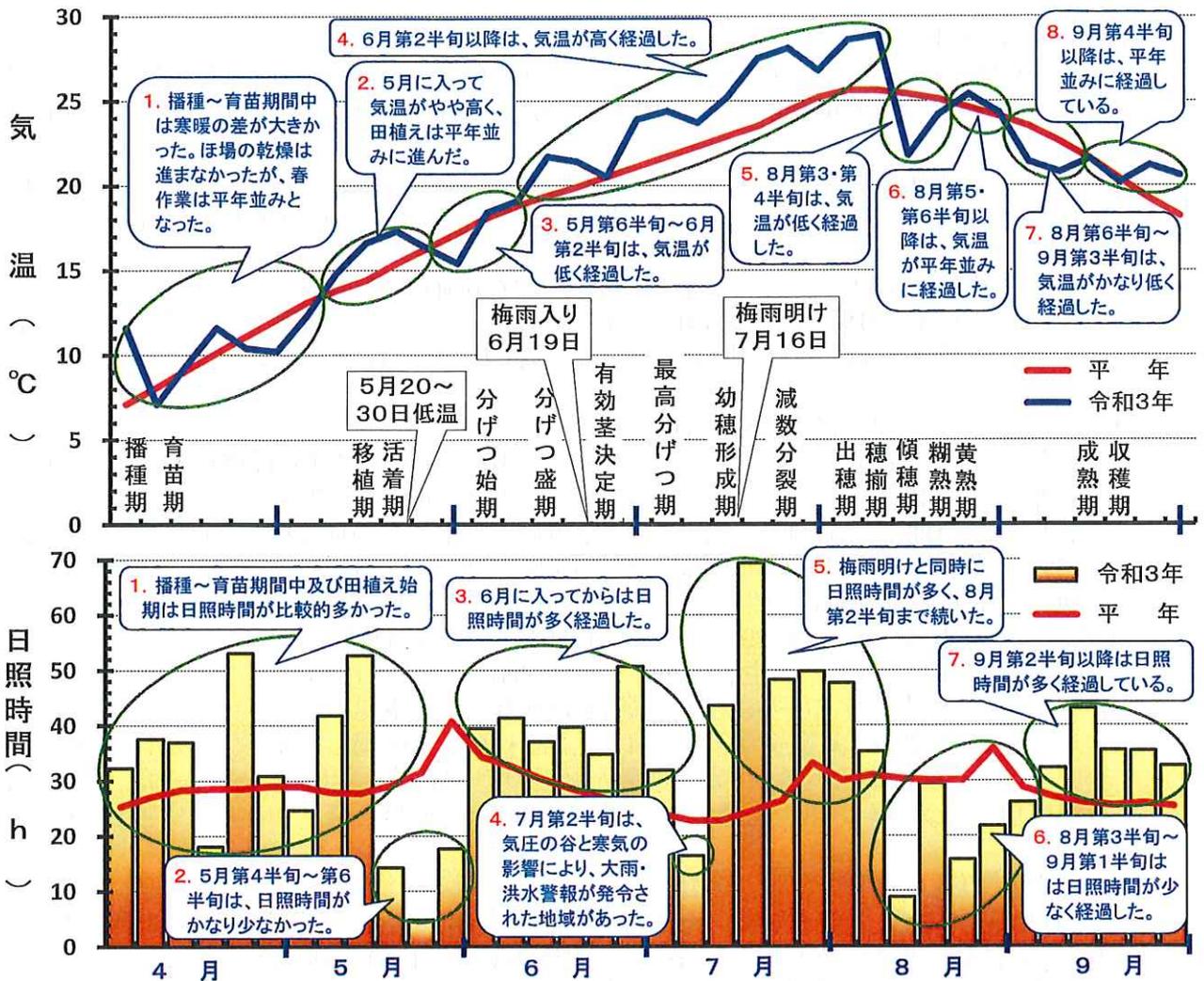
(令和3年8月20日調査、品種:あきたこまち)

農 業 振 興 普 及 課	調 査 点 数	出穂期		穂数		着粒数			
		本年	平年差	m ² 当たり		1穂当たり		m ² 当たり	
		(日)	日	(本)	(%)	(粒)	(%)	(千粒)	(%)
鹿角	5	7月31日	-3	501	104	63.9	94	32.0	98
北秋田	9	7月27日	-5	461	99	72.7	105	33.2	103
山本	9	7月29日	-5	454	101	79.3	106	36.0	106
秋田	10	7月28日	-4	420	97	73.7	98	30.9	95
由利	2	7月30日	-4	450	105	73.2	101	32.9	107
仙北	10	7月30日	-4	447	100	75.4	103	33.6	104
平鹿	11	7月31日	-4	469	106	76.6	101	35.7	107
雄勝	8	7月30日	-5	431	98	76.4	106	32.8	103
県北	23	7月29日	-4	467	101	73.4	103	34.1	104
中央	12	7月28日	-4	425	98	73.6	98	31.2	97
県南	29	7月30日	-5	451	101	76.1	103	34.2	105
全 県	64	7月29日	-5	452	101	74.7	102	33.6	103

各JA「あきたこまち」の品質・収量概況

(令和3年10月8日現在、遠観調査及び聞取)

JA名	収穫量	1等米比率	主な落等理由(上位3項目)	特記事項
かつの	平年並み	90%	1. 着色粒(カメムシ)、2. 胴割れ粒、3. 充実度不足	・出穂時の高温
あきた北	平年並み	90%	1. 着色粒(カメムシ)、2. 胴割れ粒、3. 充実度不足	・出穂時の高温で胴割れ
秋田たかのす	平年並み	87%	1. 着色粒(カメムシ)、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・出穂時の高温
あきた白神	平年並み	89%	1. 着色粒(カメムシ)、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・高温時出穂ほ場で胴割れ
秋田やまもと	やや良	90%	1. 着色粒(カメムシ)、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・高温時出穂ほ場で胴割れ
あきた湖東	平年並み	88%	1. 着色粒(カメムシ)、2. 胴割れ粒、3. 充実度不足	・出穂時の高温
秋田なまはげ	やや不良	90%	1. 着色粒(カメムシ)、2. 胴割れ粒、3. 充実度不足	・減収、個人差大きい
大潟村CE公社	平年並み	98%	1. 着色粒(クサビ)、2. 充実度不足	・出穂時の高温
秋田しんせい	やや良	94%	1. 着色粒(カメムシ)、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・出穂時の高温影響なし
秋田おばこ	やや良	95%	1. 着色粒(カメムシ)、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・着色粒目立つ
秋田ふるさと	やや良	92%	1. 着色粒(カメムシ)、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・着色粒目立つ
こまち	やや良	94%	1. 着色粒(カメムシ)、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・着色粒目立つ
うご	やや良	95%	1. 着色粒(カメムシ)、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・着色粒多い



稲作期間中の気象と生育概況

(1) 育苗期(4月)

4月の日平均気温(10.1℃)は平年より0.5℃高く、日照時間(平年比123%)はかなり多かった。播種作業の盛期(50%)は4月22日で平年並となった。また、耕起などの春作業も順調に進み平年(5月3日)より1日早かった。

苗の生育は、苗丈がやや短く(平年比86%)、葉数は平年より進み(平年差+0.3葉)、乾物重(平年比117%)が重く、充実度(同133%)は平年を上回った。

(2) 移植期(5月)

5月は、日平均気温(15.4℃)が平年に比べ+0.2℃で平年並みであったが、5月下旬の日平均気温は平年より-1.1℃低かった。また、5月の日照時間は平年の84%と少なく、降水量は平年の171%とかなり多かった。

全県の田植え盛期(50%)は5月22日、終期(95%)は5月30日で平年並みとなった。5月下旬は前線と低気圧の影響により低温が続き、一時田植えを見合わせた期間があった。この時期に田植えを行った沿岸部の一部地域で代枯れや活着不況がみられた。

(3) 分けつ期(6月)

6月の日平均気温(20.8℃)は平年に比べ+1.2℃高く、日照時間(243.2h)は平年に比べかなり多く、降水量は平年(76.0mm)より少なかった。「梅雨入り」は平年より5日遅い6月19日であった。

分けつ始期(6月10日)の生育は、5月下旬の低温・寡照の影響により、草丈は25.5cm(平年比101%)、 m^2 当たり茎数は115本(同74%)と極端に少なく、葉齢は5.9葉(平年差-0.2)であった。

有効茎決定期(6月25日)の生育は、草丈は37.6cm(平年比103%)、 m^2 当たり茎数は388本(同94%)、葉齢8.9葉(平年差+0.3葉)で遅れていた生育は回復しつつあった。しかし、5月下旬に田植えを行った一部の地域では生育の遅れが目立った。

(4) 最高分けつ期～減数分裂期(7月)

7月の日平均気温(26.0℃)は平年に比べかなり高く(+2.6℃)で推移した。日照時間(259.4h)は平年の173%でかなり多く、降水量は平年(平年比127%)より多かった。

最高分けつ期(7月5日)の生育は、草丈が51.5cm(平年比104%)、 m^2 当たり茎数548本(同101%)、葉緑素計値43.9(同99%)、葉齢10.3(平年差+0.3葉)であった。

幼穂形成期(7月15日)の生育は、草丈が66.3cm(平年比106%)、 m^2 当たり茎数532本(同99%)、葉緑素計値41.7(同99%)、葉齢11.4(平年差+0.4葉)であった。

減数分裂期(7月26日)の生育は、草丈が82.4cm(平年比112%)、 m^2 当たり茎数482本(同97%)、葉緑素計値37.8(同98%)、葉齢12.7(平年差+0.5葉)であった。

最高分けつ期から減数分裂期にかけて高温・多照で経過し、適度な降水に恵まれ、溝掘りや中干しによる水管理が徹底され、穂肥と実肥の追肥を控えたほ場が多かった。こうした高温・多照は斑点米カメムシ類の生息密度が高まり、防除の徹底と草刈りの実施を呼びかけた。

(5) 出穂期(8月上旬)

6月中旬から8月上旬まで続いた高温・多照は生育を早め、「あきたこまち」が誕生して以来、過去に類を見ないから早さ(-5日)で出穂期(7月31日)を迎えた。

東北農政局秋田拠点が発表した作柄概況でも、出穂最盛期(50%)は8月1日で平年より4日早まった。

(6) 登熟期(8月中旬～)

8月の日平均気温(25.5℃)はほぼ平年並み(平年比+0.5℃)で推移した。日照時間(158.9h)は平年比85%と少なく、降水量(172.5mm)は平年比93%で平年並みであった。登熟中・後期の日平均気温は平年並みに推移したが、日照時間が少なく粗玄米千粒重の増加が一時鈍化した。

8月20日の生育は、 m^2 当たり穂数は452本(平年比102%)、1穂当たり着粒数は74.7粒(同102%)、 m^2 当たり総粒数は33.6千粒(同103%)であった。

(7) 病害虫の発生

病害虫防除所が8月上旬に調査した結果では、穂いもちの発病株率と発病地点率は平年並みであったが、県南部ではやや多かった。また、斑点米カメムシ類は、6月中旬から8月上旬まで高温・多照で経過したことから、水田内のすくい取りの発生地点率は平年と比較していずれも多かった。

(8) 今年の気象は、播種から刈り取りまで気象変動が非常に大きかった。5月中旬～6月上旬の低温・寡照、6月中旬～8月上旬までの高温・多照、8月中旬～9月上旬は極度の

日照不足など観測史上記録的な気象で経過した。こうした天候にもかかわらず、生産者の弛まない努力により、9月25日の10a当たり収量は591kg、作況指数「102」、作柄は「やや良」となった。

古式にのっとり厳かに「献穀田」拔穂祭

令和3年9月25日



伊勢神宮に収穫した米を献上する令和3年度の「献穀拔穂祭」が横手市の水田で開かれた。新品種米「サキホコレ」の稲を、すげ笠をかぶった5人の刈女が鎌で手刈りした。5月に農事組合法人「ファームみいり」で田植えを行い、代表の高橋吉昭さんが管理してきた。今年は初めて「サキホコレ」を栽培したことから、「とくに水管理に気をつけたことから満足できる出来栄え」と話していた。神事には県神社庁関係者、地元住民、JA関係者ら約100人が参加した。

献穀行事は、平成2年の大嘗祭で五城目町の水田が悠紀斎田に選ばれたのを祈念し、平成3年から県神社庁13支部が持ち回りで実施してきた。平成から令和に変遷されたことから持ち回りでの献穀行事は今年が最後となる。県神社庁は今後の開催方式については検討している。



新米発出荷セレモニー 令和3年10月1日



東北農政局秋田県拠点が10月12日に公表した9月25日現在の10a当たり予想収量は591kg、作況指数「102」の作柄は「やや良」であった。地帯別作柄概況も県北・中央・県南ともに「やや良」であった。ひとまず、ほっとしているのは小生だけだろうか。

8月中旬からの長雨と日照不足はどうに去り、ひと雨ごとに秋の色が深まってきた。稲刈りが終わった田んぼには緑色の「ひこばえ」が目立ち、稲作期間中の気象に思いを馳せる。今年の気象は、播種から刈り取りまで気象変動が非常に大きかった。田植えが本格的に始まった5月中旬から6月上旬は、低温と日照不足で活着が遅れ生育が抑制された。しかし、6月上旬から8月上旬は記録的な高温・多照により遅れていた生育が回復し、過去に類を見ない出穂の早さとなった。「あきたこまち」の出穂は、平年より5日早い7月29日となった。出穂前後も高温・多照が続き、白未熟粒の発生が懸念された。8月中旬から9月上旬は日照不足と長雨により初期登熟は順調であったものの、登熟中・後期は鈍化した。

こうした天候にもかかわらず、生産者の弛まない努力により、9月15日の作況指数は「102」、作柄は「やや良」となった。集荷された玄米の品質は良好、炊き上がりは「粘り」があってうま味が凝縮され、自信を持って消費者へお届けできるコメに仕上がっている。

こだま

全国農業協同組合連合会 秋田県本部
〒010-8558
秋田市八橋南2-10-16
URL:<https://www.zennoh.or.jp/ak/>

次回の発行は11月22日頃

資料の使用に当たっては米穀部の許可を得る

JA全農あきた米穀部
〒011-0901
秋田市寺内字神屋敷295-53
TEL:018-845-8500
FAX:018-880-1572